

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立田原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問調査)

4 本校の参加状況

- | | |
|------|-----|
| ① 国語 | 19人 |
| ② 算数 | 19人 |
| ③ 理科 | 19人 |

5 留意事項

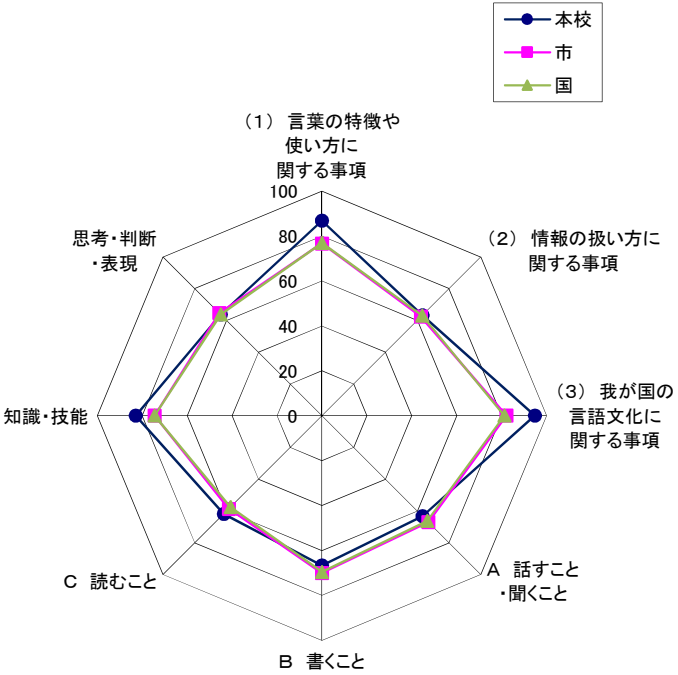
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果の全てを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立田原小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	86.8	76.7	76.9
	(2) 情報の扱い方にに関する事項	63.2	62.4	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	94.7	82.1	81.2
	A 話すこと・聞くこと	63.2	67.0	66.3
	B 書くこと	66.7	70.0	69.5
	C 読むこと	61.8	58.6	57.5
観点	知識・技能	82.9	74.5	74.5
	思考・判断・表現	63.7	64.6	63.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

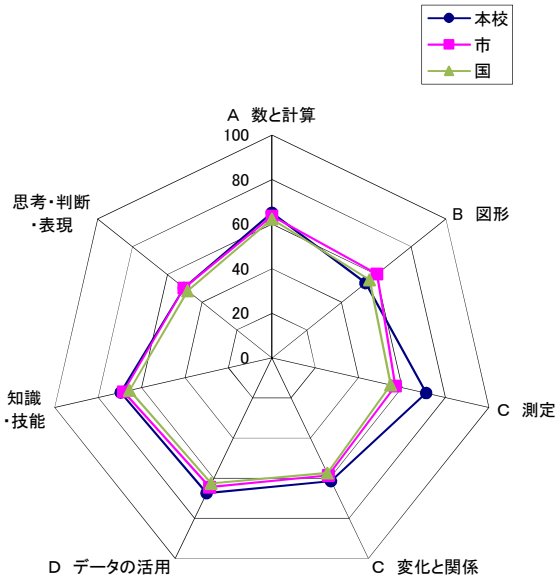
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、全国平均よりも高い。 ○学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う設問の正答率は高い。	○漢字の定着に向けた指導を今後も継続して行う。また、漢字指導においては、熟語調べなどに関連させて指導を行う。
(2) 情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、全国平均よりもやや高い。 ○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかを見る設問の正答率が高い。	・今後も教材を丁寧に読み取り、情報どうしの関係や、語句と語句の関係を確認するとともに、書く活動を取り入れるようにする。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、全国平均よりも高い。 ○時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができるかどうかを見る設問の正答率が高い。	・教材文を読む際は、今後も言葉の表現の違いを丁寧に取り扱い、読み取るようにしていく。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、全国平均よりも低い。 ○目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかを見る設問の正答率が高い。 ●自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうかを見る設問の正答率が低い。	・話の内容が明確になるように、スピーチメモを作ったり、目的に応じて資料を使ったりする活動を今後も継続して行っていく。 ・話し合う場の設定だけでなく、教師や友達の発表、教材文等を「聞く」活動を繰り返し設定するなど、聞き方のポイントを明確にしながら指導を行っていく。
B 書くこと	平均正答率は、全国平均よりも低い。 ●目的や意図に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかを見る設問の正答率が低い。	・教材文の中の事実と感想を区別したり、筆者の意図を読み取ったりする活動を丁寧に行うとともに、文章を書く際には、意図や目的を明確にさせ、相手を意識させながら書くように指導していく。 ・学年の発達段階に応じて、学習のまとめ、振り返りを記述する取組を継続して行い、自分の考えをまとめ、書くことの習慣化を図っていく。
C 読むこと	平均正答率は、全国平均よりも高い。 ○時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大筋を捉えることができるかどうかを見る設問の正答率が高い。 ●目的に応じて、文章と読書などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかを見る設問の正答率が低い。	・今後も、朝の学習の時間で語彙の拡充ができるような問題を扱ったり、「朝の読書タイム」で学年の実態に応じた図書を読んだりする活動を継続して行っていく。 ・授業において、部分と全体を結び付けて考えることのできるような発問や、表現の効果を問う発問を行う。また、問いに対してみんなで考えて意見を交流する場を大切に、全体で読む力を伸ばしていく指導を行う。

宇都宮市立田原小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	65.1	63.6	62.3
	B 図形	53.9	60.4	56.2
	C 測定	71.1	56.9	54.8
	C 変化と関係	61.4	58.6	57.5
	D データの活用	67.4	64.4	62.6
観点	知識・技能	69.6	68.3	65.5
	思考・判断・表現	50.4	50.4	48.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

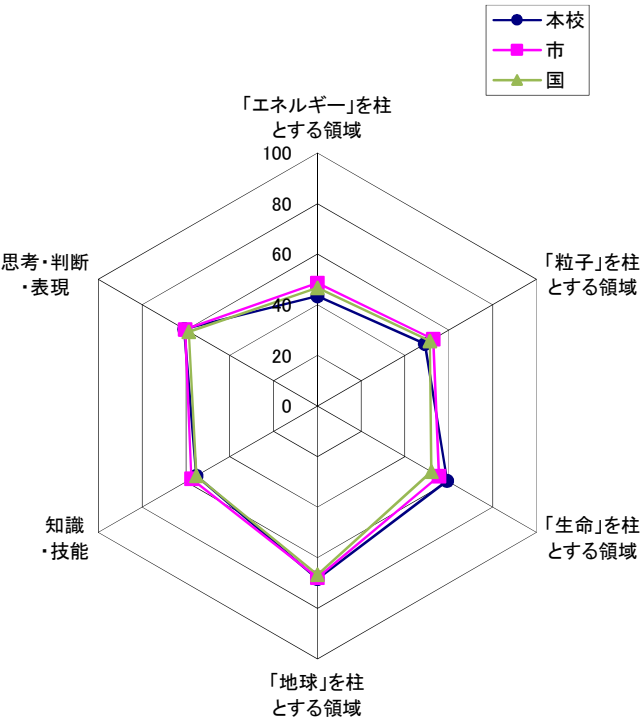
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○平均正答率は、全国平均と比べて高い。 ●2022年の全国のブロックリーの出荷量が2002年の全国のブロックリーの出荷量の約何倍かを、棒グラフから読み取って選ぶ設問の正答率がやや低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・今後も、朝の基礎学習の時間や家庭学習で繰り返し計算練習を行い、基本的な計算力の定着に向けた指導を行う。 ・過去に習った棒グラフ・折れ線グラフ・柱状グラフが何を表していたのか、もう一度学習する。
B 図形	●平均正答率は、全国平均と比べて低い。 ●示された平行四辺形をかくために、コンパスの開く長さを書き、コンパスの針を刺す場所を選ぶ設問の正答率は低い。 ●角をつくる2つの辺をそれぞれに伸ばした図形の角の大きさについて分かることを選ぶ設問の正答率は低い。	・実際に図形を作図したり、具体物を操作する活動を取り入れ、図形について理解できるようにする。 ・平行四辺形の2つの辺が平行で長さが同じという性質をもう一度学習する。 ・2つの辺で作る角が同じことを、具体物を使って確認させる。
C 測定	○平均正答率は、全国平均と比べて高い。 ○はかりが示された場面で、はかりの目盛りを読む設問の正答率が高い。	・朝の基礎学習の時間や家庭学習で繰り返し既習事項を学習させる。
C 変化と関係	○平均正答率は、全国平均と比べて高い。 ●10%増量したつめかえ用のハンドソープの容量が、増量前の何倍かを選ぶ設問では、正答率が低い。	・単位量あたりの大きさ、速さ、道のり、時間などの復習問題に取り組みさせていく。 ・「○%増量」とはどういうことなのかを、もう一度確認する。
D データの活用	○平均正答率は、全国平均と比べて高い。 ○示された表から、「春だいこん」や「秋冬だいこん」より「夏だいこん」の出荷量が多い都道府県を選ぶ設問では、正答率が高い。	・計算ドリル、個人用端末などを活用し、基本的な計算の定着に向けた指導を今後とも継続していく。

宇都宮市立田原小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	43.4	48.6	46.7
	「粒子」を柱とする領域	49.1	52.8	51.4
	「生命」を柱とする領域	59.2	55.5	52.0
	「地球」を柱とする領域	68.4	67.9	66.7
観点	知識・技能	55.3	57.5	55.3
	思考・判断・表現	60.8	60.4	58.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、全国平均よりも低い。 ○電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いているかどうかを見る設問の正答率が高い。 ●電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現することができるかどうかを見る設問の正答率が低い。	・調べるための実験方法について、どのような方法をすれば結果を得ることができるかを考える機会をとるようにする。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、全国平均よりも低い。 ○水の温まり方について、問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することができるかどうかを見る設問の正答率が高い。 ●「水は温まると体積が増える」を根拠に、海面水位の上昇した理由を予想し、表現することができるかどうかを見る設問の正答率が低い。	・実験の際に、予想や結果の考察など、自分の考えをまとめて表現する指導を行っていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、全国平均よりも高い。 ○レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができるかどうかをみる設問の正答率が高い。	・実験や学習の結果から、新たな視点で考える授業をこれから実践していく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、全国平均よりも高い。 ○赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して、表現することができるかどうかをみる設問の正答率が高い。 ●水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる設問の正答率が低い。	・学習した知識が、生活の中のどのような場面で見られるのかを授業で触れ、実感を伴って理解できるよう支援する。

宇都宮市立田原小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか」と「毎日同じくらいの時刻に起きていますか」の質問に対する肯定割合はともに94.7%であり、全国平均をそれぞれ大きく上回っている。今後も家庭との連携を図り、規則正しい生活について支援していきたい。
○「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の設問に対する肯定割合は94.7%であり、全国平均を24.0%上回っている。これからも児童に寄り添い、安心した学校生活を送ることができるよう支援したい。
○「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の肯定割合は94.7%であり、全国平均を16.5ポイント上回っている。考えの比較検討の活動や、伝え合う活動を多く行い、多くの考え方に触れて自分の考えの幅を広げられるような支援をしていきたい。
●「読書は好きですか」の肯定割合は57.9%であり、全国平均を11.8ポイント下回っている。読書時間の確保や、学校図書館司書との連携を密にし、本の紹介や触れる本のジャンルを広げる活動を行うなど、本に親しむ機会を増やしていきたい。

宇都宮市立田原小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	・児童相互の学び合いの場で、自分の意見を話したり、友達の考えを聞いたりする活動を取り入れる。	・友達と話し合ったり、意見を交流したりすることへは前向きな回答が多いが、表現することへの苦手意識をもつ児童も多い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「読書は好きですか」の設問において、好きではないと答える児童がやや多かった。	・読書の時間の確保 ・学校図書館司書との連携	・特に高学年において、時間の確保が難しい時期があるが、安定して確実に時間をとれるようにする。 ・学校図書館司書との連携を密にし、本の紹介や触れる本のジャンルを広げる活動を行う。